

# 牛久：学校周辺に見る自然

第1号 宮内家（稲敷市）

2014年4月4日発行

< 春がかけ足で ～庭のサクランボに…>



サクランボのみつを吸うメジロ。季節により、みつを吸う花も変わります。花から花へ、ときにはうんと体をのぼして。

4月になりました。気持ちも新たに、新年度の始まりですね。次々といろいろな花が咲き始め、ちょっと前まではウメの花みつを吸っていたメジロも、サクラの木へと移ってきました。写真は3/24、天気もよく暖かな朝に、庭のサクランボにやってきたメジロです。目のまわりが白いので「目白（めじろ）」。日本の小笠原おがさわらにしかいない鳥で、目のまわりに黒い三角のもようがあるメグロというのがありますが、特ちょうがあって、覚えやすい名前ですね。誰かが絵の具をぬったようにも見えますが、これも短い羽毛の集まりなのだそうです。花のみつや果物などくだもの甘いものが好きですが、長い舌が筆したのようになっていて、花みつなどにさしこんでは、舌の先にふくませて食べるのだそうです。



サクランボの花みつを吸ったり(上・左下)、後ろ足の花粉かごに、だんごにして花粉をためこむ(右下)セイヨウミツバチ。みつはストローのように長い口(右下)で吸い、お腹の中の袋にためて巣に持ち帰る。

メジロがいなくなると、今度はミツバチがやってきました。ニホンミツバチより寒さに弱いといわれる、**セイヨウミツバチ**です。いままでどこにいたのだろうと思うくらい、たくさんやってきました。ストローのような長い口をさしこんでは、次々とみつを吸っていきます。吸ったみつはお腹の中の「蜜囊(みつのう)」とよばれる袋ふくろにためこんで、巣に持ち帰ります。さらに観察していると、ときどき足や口先をかゆがるように足でかくようすも見られます。これはブラシのような足で体についた花粉をかき集めているのだそうです。集めた花粉は、みつといっしょにだんごにして、後ろ足にある「花粉かご」とよばれる袋かふんにためて巣に持ち帰ります。上や右下の写真で、後ろ足についている黄色いボールのようなのが花粉かごです。かごいっぱいには花粉だんごをつめこんで、またお腹の中にはみつをたくさんためこんで飛んでいるのですね。重たいでしょうね。そうしてミツバチたちが集めたみつが蜜囊の中や巣の中で変化して「はちみつ」となり、私たちが食べているのです。ハチたちの苦勞を思うと、はちみつの味も変わるかもしれません。ところでサクランボは、みつや花粉を食べられてめいわくそうに見えますが、メジロやミツバチたちがいなくなると逆ぎやくに困こまってしまうのです。なぜかはこれまでも少しふれたことがあります。またの機会きかいにお話ししましょう。【理科支援員：宮内】